

## 目次

- 特集** ▶薬剤部の取り組みとお願い  
**お知らせ** ▶県立病院防災訓練を実施しました

## 薬剤部の取り組みとお願いについて 福井県立病院薬剤部長 平賀 貴志

今回発行されるコンパス34号で、薬剤部の紹介をさせていただきます。薬剤部には、26名の薬剤師と1名の医療事務員あわせて27名の病院職員が在籍しています。病院職員以外に、治験関係の外部職員と医薬品管理等の薬剤補助業務に係る委託職員も配属されています。病院内の他部署(診療部・看護部・医療技術部・事務局)と比べ、人数の少ない部署ですが、医薬品の有効性と安全性を確保するため、職員一丸となって努力しています。



今回薬剤部の取り組みとして、がん薬物療法・治験・服薬指導の3項目について、また、薬剤部からのお願いとして、入院時のお薬の提出・お薬手帳の持参・院外処方せんの使用期間の3項目について次ページ以降で紹介させていただきました。当院薬剤部の業務内容等につきましてご理解いただければ幸いです。

9年前から薬系大学における薬学教育が、医師・歯科医師・獣医師と同じ6年制となり、病院の薬剤師には臨床の現場で医師・看護師等の他職種医療スタッフと協同したチーム医療を行うことが求められています。今後とも、県民の皆様のため、薬物療法の向上に努めたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

## 福井県立病院理念・基本方針

## 理念

私たちは、総合的かつ高度な医療の提供を通じて、県民に信頼され、心あたたまる病院をめざします。

## 基本方針

1. 心身ともに全人的な医療を提供します。
2. 質の高い医療、特殊・先駆的医療を提供します。
3. 安全管理を徹底し、患者様本位の医療を提供します。
4. 救命救急医療の充実を図ります。
5. 地域医療機関との連携に努めます。
6. 個人情報の適切な管理を行います。
7. 健全な経営に努めます。



「コンパス」には、

「円を描く道具」「方角を示す磁石」の2つの意味があります。

この広報誌が皆様と当院の輪(和)を描くものとなり、また皆様にとって有用な情報を提供することで、今後の皆様の健康の道しるべとなるよう願いを込めて名づけられました。

## <薬剤部の取り組み>

### 1 がん薬物療法について

- がん薬物療法を行う場合、医師は患者さんの状態にあわせて抗がん剤の投与量や選択期間・間隔などを決めていきます。(これを「レジメン」といいます。)
- 薬剤部では、患者さん毎に医師が選択したレジメンを監査しています。
- 適正なレジメンであると確認された場合には、無菌的な環境で抗がん剤を安全に混合調製しています。
- また、がん関連の病棟やがん医療センターには、がん治療専門の薬剤師が常駐しています。
- 医師・看護師とチーム医療を行っており、抗がん剤等の薬剤について患者さんへの説明や副作用に対するサポートを行っています。
- その他、がん医療センターでは、かかりつけ保険薬局で受取られるお薬についても当院の薬剤師との連絡体制ができています。
- お薬や副作用について、ご心配や不安なことがあれば、担当する薬剤師にお気軽にご相談下さい。



無菌室での抗がん剤混合調製



がん医療センター

### 2 治験について

- 新しいお薬を開発するために必要な「治験」に関する業務を行っています。
- 治験は、国の定めた省令(GCPといいます)に基づき日本全国で実施されています。
- 当院でも厚生労働省の班研究等も含めた先進的な取り組みを行っており、医師が患者さんにご協力を依頼する場合があります。
- ご興味を持たれた場合には、治験担当者(治験コーディネーター)が詳しい説明をさせていただきますので、ご協力をよろしくお願い致します。



治験薬を監査し、払出しをする薬剤師

### 3 服薬指導について

- 病棟では、特に安全管理が必要なお薬(ハイリスク薬)を使用されている患者さんを中心に薬剤師が服薬指導を行っています。
- お薬に関してわからないことや困ったことがありましたら、薬剤師にお気軽にご相談ください。担当の薬剤師が責任をもって回答させていただきます。

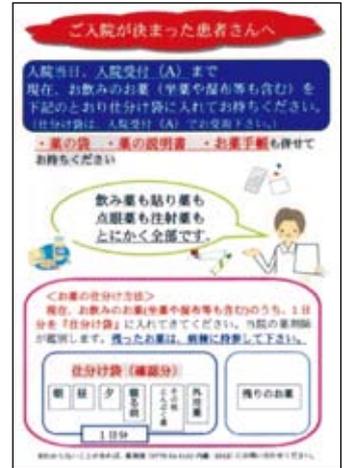


病棟での入院患者さんへの服薬指導

## <薬剤部からのお願い>

### 1 入院時、現在お飲みのお薬の提出をお願いします

- 入院が決まった患者さんには、入院受付で仕分け袋を受取り、入院当日に、現在お飲みのお薬のうち1日分を仕分け袋に入れて提出してもらい、薬剤部でお薬の内容を確認しています。
- これは、現在お飲みのお薬を早くて確に把握することが患者さんの治療を行う上で非常に重要なためです。
- また、これから治療するために処方されるお薬と現在お飲みのお薬をチェックし、重複投与を防ぐこともできます。
- 入院時、現在お飲みのお薬の提出についてご協力をお願いします。



### 2 病院受診の際には、『お薬手帳』や『お薬説明書』を持参しましょう

- 当院では、手術や検査時に、ガイドライン等に基づき抗血栓薬(抗凝固薬や抗血小板薬などの血液をさらさらにするお薬)の休薬指示を行う場合があります。
- このため、抗血栓薬を服用していると考えられる患者さんには、『お薬手帳』や『お薬説明書』を確認し、手術や検査等が安全に実施できるよう努めています。
- 病院受診の際には、『お薬手帳』や『お薬説明書』を持参し、医師・看護師・薬剤師に情報提供を行うようお願いいたします。



### 3 院外処方せんの使用期間に注意しましょう

- 院外処方せんの使用期間は、交付の日を含めて4日以内です。これには、休日や祝日が含まれますので、処方せんの使用期間を過ぎないようにご注意ください。
- 使用期間を過ぎた場合、処方せんの再発行が必要になります。再発行は患者さんの自己負担となりますので、お気を付け下さい。
- 長期の旅行等特殊な事情があり、医師が処方せんに別途使用期間を記載した場合にはその日まで有効となりますので、診察の際に申し出て下さい。



(薬剤部一同)



## 災害に備えて10月4日に防災訓練を行いました

地震などの大規模災害が発生した際に、1人でも多くの傷病者に対して最善の治療を行うため防災訓練を行いました。

訓練は平成16年度および平成20年度から毎年継続して実施し、今回で8回目になります。

訓練には、福井赤十字病院、丹南病院、敦賀病院のDMAT（災害派遣医療チーム）の方々、模擬傷病者として看護専門学校 of 学生さんの協力を得て、院長をトップに全体で約170名が参加しました。

今回は、多くの傷病者の受入れを想定し、軽症者は屋外で処置することにしました。このため、トリアージは本棟正面玄関前、軽症者救護所は屋外に設置したエアテントとしました。医療スタッフは、屋外での風、離れた暫定災害対策本部との連絡などに苦労して訓練を行いました。

中等症者、重症者の救護所は、1階待合に設けました。医療スタッフは、制約された状況で情報を伝え、次々に来る傷病者の処置を行うことで、能力の向上を図りました。

院外DMATには、重症者救護所での治療から、緊急入院ゾーンへの搬送や、県外への広域搬送を担っていただき、当院スタッフとの連携を確認しました。

他にも地震速報の体験や、防災倉庫からの資材搬出、災害対策本部の立ち上げを通じて、災害が発生した時に迅速・円滑な対応がとれるように訓練しました。

今後も、防災に関する意識を高く持ち、いざという時にも素早く冷静に対応できるよう準備を重ねてまいります。



トリアージ



軽症者救護所



中等症者救護所



重症者救護所



福井赤十字病院・丹南病院DMAT



敦賀病院 DMAT

### 新聞やテレビで、県の情報をキャッチ!

- 【新聞】 「県からのお知らせ」(毎月1日、15日に掲載)
- 【テレビ番組】 「おはようふくい7セブン」(FBC/日曜)
- 〃 「ほっとふくい」(ftb/1・3土曜)
- 〃 「まちかど県政」(FBC、ftb/日曜)
- 【広報誌】 「県政広報ふくい」(年6回発行)

※ラジオやインターネットでも提供中。

お問い合わせ

県広報課

0776-20-0220



健康長寿の福井



福井県

発行 福井県立病院 情報発信力強化委員会

福井市四ツ井2丁目8番1号 TEL:0776-54-5151(内線2061)

ホームページもご覧ください

<http://info.pref.fukui.jp/imu/fph/>